



特集:手外科・再建外科

日本の風景 「上高地」

上高地(かみこうち)は、飛騨山脈(北アルプス)南部の長野県側、梓川上流にある景勝地である。中部山岳国立公園の一部となっており、国の文化財(特別名勝・特別天然記念物/天然保護区域)に指定されている。標高は約1,500m。全域が松本市に属する。宿泊施設や温泉があり、上高地自体が観光地であるだけでなく、穂高連峰や槍ヶ岳への登山基地ともなっている。

文・写真引用元:Wikipedia/写真AC

高知赤十字病院の理念

愛され、親しまれ、信頼される病院づくりを目指します。

高知赤十字病院基本方針

- 人道・公平・中立・奉仕の赤十字基本原則を遵守します。
- チーム医療を推進し、患者様中心の安全で良質な医療を提供します。
- 高度医療の推進と救急医療の充実を図ります。
- 地域医療機関との連携を推進し、地域医療レベルの向上に努めます。
- 教育・研修の推進と次代を担う医療従事者を育成します。
- 災害時における医療救護活動への積極的な参加と支援を行います。

受診される皆様へ

私たちは、受診される皆様の権利を尊重します

- 平等かつ適切な医療を受ける権利
- 個人の人権が尊重される権利
- プライバシーが保障される権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 医療上の情報及び説明を受ける権利
- 医療行為を選択する権利

私たちからのお願い

- ご自身の健康に関する詳細な情報を医師をはじめとする医療提供者にお知らせください。
- 治療や検査等は、理解し、納得したうえでお受けください。分からないこと等は、ご遠慮なく医師をはじめとする医療提供者にお問い合わせください。
- 病院内では他人の迷惑にならないようお願いいたします。
- 暴言・暴力行為があった場合、診療をお断りすることがあります。
- 医療費の支払い請求には、速やかな対応をお願いいたします。
- その他、より快適な入院生活をお過ごしいただくために、病院内の約束事についてはご協力をお願いいたします。



KINEVO 900

高精細・高倍率で4K3D、
特殊光観察機能など、現
代の手術顕微鏡に必要な
機能を持っています。



スペシャリストが治療にあたります

当院では2023年4月より4名で治療にあたっています。それぞれの医師は整形外科専門医、形成外科専門医で、さらにそれぞれの分野のスペシャリスト(手外科専門医、再建・マイクロサージャリー分野指導医)です。

整形外科の役割

整形外科は骨、関節、脊椎脊髄、筋腱などの疾病や外傷の治療を専門とする科で、手や四肢の重度外傷において、機能再建を担います。筋腱の専門的な知識を生かして、腱縫合、腱移行を行い、骨・関節の知識を用いて骨折や靱帯損傷の治療を行います。

形成外科の役割

形成外科は重度四肢外傷の皮膚および軟部組織欠損を修復する役割などを担います。皮膚移植、穿通枝皮弁移植、血管吻合を用いた遊離皮弁移植など、状況に応じていろいろな再建法を駆使し、整形外科の治療をサポートします。

手外科専門医

手外科専門医は上肢全般、特に手疾患に関する医学的スペシャリストです。整形外科あるいは形成外科の専門医資格を取得し、さらに手外科の専門研修を終え、専門医試験に合格した医師が手外科専門医となります。上肢、特に手指は複雑で繊細な構造をしており、一度傷つくとなかなか元の機能に戻りません。そのために手の外傷は、傷が治癒したり、切断された指が接着されただけでは治療したことにはなりません。知覚や運動機能を再獲得するための、腱、神経、リハビリテーションなどの手外科の専門的な知識が必要となっています。



当院では手指の骨折、靱帯損傷、腱損傷の一般外傷のみならず、より重症の欠損を生じた外傷や切断症例の治療にも積極的に取り組んでいます。上記外傷、それ以外の外傷でも、可能な限り対応させていただきます。手外科専門外来も行っていますのでお気軽にご相談ください。

手外科専門外来
ホームページ
詳しくはこちら
から



手外科・再建外科のご案内



整形外科
中山 祐作

形成外科
柏木 圭介

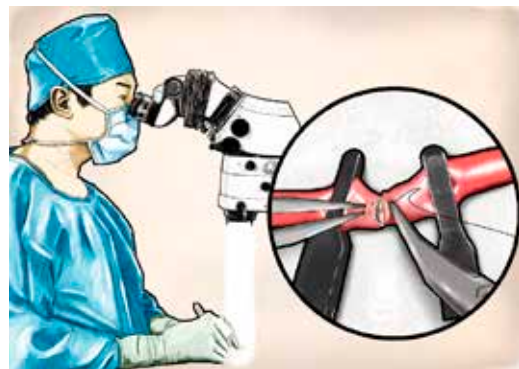
整形外科
高橋 芳徳

整形外科
古月 拓己

当院では、整形外科と形成外科の専門医が
合同でマイクロサージャリーを用いた切断指
の再接着や重度上肢外傷の再建治療に積極
的に取り組んでいます。

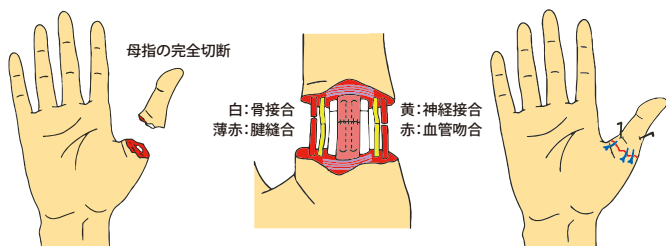
マイクロサージャリーとは

マイクロサージャリーは手術用ルーペや手術用顕微鏡を用いて
微細な手術を行う技術です。整形外科領域では切断指や各種神
経血管損傷、組織再建などで微細な神経や血管をつなぎます。



日本マイクロサージャリー学会HPより

母指切断に対する再接着例



日本整形外科学会HPより

術直後



術後半年



令和5年度高知県総合防災訓練に参加しました

5月28日(日) in 奈半利町

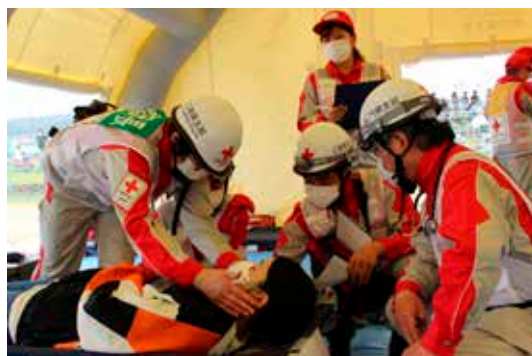
薬剤部 中田 愛

5月28日に奈半利町で行われた高知県総合防災訓練に参加させていただきました。

訓練ではトリアージ、治療、後方搬送までの一連の流れを行いました。私はdERU内の薬剤管理を担当しました。患者さんが次々と運ばれてくるため情報が錯綜し、薬剤管理が難しかったですが、自分の役割を理解しどのようにすればよいか考えることができました。暑い中でのdERUの設営や訓練は大変でしたが、改めて日頃の訓練に参加することが大事であると感じてきました。



中田



6西病棟 岩城 聖子

南海トラフを震源としたマグニチュード9.0の巨大地震を想定し、風水害への対応も含め様々な訓練が行われました。私たち高知県赤十字救護班は、メイン会場となる奈半利緑地公園で医療救護訓練を現地しました。救護所の設営ではテントや簡易ベッドの組み立てに体力を要し実際の救護が始まるまでにすでに疲労困憊、そのような中、ベッドやホワイトボードの配置、動線などを考えて準備をする事が救護に影響する事も学びました。その後、開会式までのわずかな時間でご飯をかき込み、隣の広場で行われている防災フェスティバルの出演にかけこんでおいしいコロッケを食べ、つかの間の至福の時間も味わいました。訓練本番では、トリアージから後方搬送まで救護所で限られた医療資機材での対応、情報収集をしながら優先順位をつけ救護活動を行いました。訓練では

たくさんさんの情報が錯綜するなか、改めて冷静な判断、それぞれが自分の役割を果たすこと、指揮命令系統の大切さを学びました。今回、愛媛県赤十字、広島県赤十字、高知医療センターDMATの方々とは合同で訓練に参加し県を跨いでの交流も行いとてもよい経験ができました。高知県支部の方々、アドバイザーの山崎先生、救護班メンバーの皆様ありがとうございました。



岩城

防災season^{シーズン}

～当院の防災の取り組みや考え方を紹介します～

No. 6

薬剤部 宇野 恵梨子



こんにちは。今回は薬剤部の宇野が担当します。

先日、個人的に人生初めての東北へ足を運びました。2011年の東日本

大震災で被害の大きかった石巻には行けませんが、宮城県仙台市にある震災遺構、荒浜小学校に見学に行って来ました。

震災当時は約800件の家が建ち並び、2,000人を超す人々が暮らしていた地区で、太平洋沿岸から約700mの距離に小学校があります。現在も震災遺構として保存されており、写真や映像も多数展示されていました。東日本大震災のときには校舎の2階床上40cmまで津波が到達し、押し流されたがれきなどにより倒壊した校舎壁や鉄柵、津波の浸水跡などを目の当たりにし、当時の写真などとあわせて想像するだけでも怖いものでした。屋上からの景色は整備されているものの閑散としており、震災前は住宅地があり家がびっしりと並んでいたことを想像すると津波の恐ろしさを痛感しました。

また、震災当時、高くて丈夫な建物はこの小学校のみで、地域の多くの方が避難し救出されたそうです。避難所で班ごとに安否確認が行われた跡が黒板に残されていたり、当時どういった物資が使われていたかなども展示されていました。

さて、南海大地震が来ると言われ、私自身小学生の頃から震災について学んではきましたが、実際はどれほど防災意識を持ち対策できているのでしょうか。自分の

住んでいる地域の津波到達スピードや浸水予想など詳しく知らないことに気付かされ、また防災備蓄の準備もまだまだ出来ていないことに焦りを感じました。発災後、医療従事者として地域住民の救命・医療に携わるのは勿論のこと、まずは自分や家族の命の安全を確保することが最重要だと思います。2011年から10年以上が経ち、記憶や意識が薄れてきた頃ですが、最近はまだ地震が頻発しており、もう一度自分の住む地域の津波被害予想の把握や防災グッズ収集など出来ることから始めるべきだと改めて感じました。また、近所の人と日頃から顔見知りになり助け合える関係を築いたり、日頃から家族と発災時の連絡の取り方や集合場所などを話し合ってみるのもいいですね。皆さんも東北に行った際には震災遺構に立ち寄ってみて、震災・防災について考えるきっかけにしてみてください。



津波が押しよせて半壊した柵



天井まで津波の被害にあった1階の教室

褥瘡対策チームの活動紹介



褥瘡対策は入院基本料の算定基準になっており、専任の医師と専任の看護職員のみで構成される褥瘡対策チームを作り、活動する必要があります。当院では褥瘡専任医師である形成外科医師、皮膚科医師と褥瘡専任看護師がチームとなり、褥瘡予防や早期発見・早期対応を心掛けたケアを行っています。

さまざまな活動の中の一つとして、褥瘡回診があります。専任医師と専任看護師だけでなく、薬剤師、管理栄養士、褥瘡専従看護師がチームとなり、横断的な活動を行っています。

毎週金曜日の1時間程度で、褥瘡や創傷のある患者さまのお部屋を訪問し、褥瘡や創傷の評価、処置方法について担当の医療者にアドバイスをしています。



傷は乾燥させて痂皮を形成して治す時代から、湿潤環境で管理を行う時代へと創傷の管理方法は変わってきました。また、ギプスやシーネ、酸素マスクなどで発生する医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)や外力によって皮膚が裂けて生じる皮膚裂傷(スキン-テア)、排泄物が皮膚に接触することで生じる皮膚炎(IAD)など、皮膚トラブルの発生するリスクには褥瘡だけでなくさまざまなものがあります。そこで当院では患者さんのベッドサイドで日々ケアを行う看護師の知識や技術力のアップを図るため、褥瘡予防コースの研修会初級コースと褥瘡治療コースの研修会中級コース、さらにトピックスとして床ずれセミナーを実施しています。平成20年度からは、他施設の医療職にも参加していただけるようしたところ、初級コースの修了者は470名を超える研修会となりました。新たな知識や技術の習得だけでなく、これまでの実践を振り返る機会にもなると喜んでいただいております。

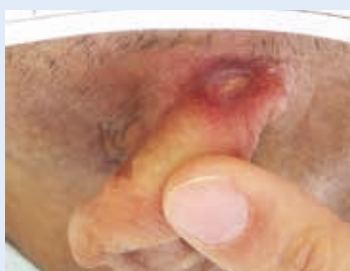
その他、専門性の高い看護職の育成にも取り組んでおり、皮膚・排泄ケア認定看護師だけでなく、創傷管理関連の特定行為研修修了者も誕生しました。今後も、皮膚トラブルをなくす、早期に発見・対応することを目標に活動をしていきたいと思っています。



形成外科部副部長
柏木Dr

皮膚排泄ケア認定看護師
田村Ns

医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)



酸素マスクストラップ(耳介)

スキンテア



ベッド柵にぶつけて手背部に発生

CAFE CROSS

★ 研修医一年目のご紹介★

RESIDENT INFORMATION



いわい こういちろう
岩井 康一郎 (高知大学卒)

医師を志したきっかけは？

1番の理由は「カッコイイ」と感じたからです。今でもこの気持ちは変わっていません。



これが好き♡

ディズニーランドやUSJのようなテーマパークが好きです。



私、スゴインですよ♪

剣道を10歳くらいの頃から続けています。三段を持っています。



研修への意気込みをひとこと★

赤十字病院のスタッフの皆さま、地域の皆様のお役に立てるように、少しずつではありますが成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



おがわ はるか
小川 晴香 (高知大学卒)

医師を志したきっかけは？

小さい頃から医療系のドラマが好きで、カッコイイなと憧れたことが医師を目指した最初のきっかけです。



これが好き♡

食べることが好きです。お料理系も甘いものも好きです。自分でもおいしく作れるようになりたいと思う今日この頃です。ちなみにお酒も好きです。



私、スゴインですよ♪

すごいと言えることはあまり思い浮かばないのですが、しいて挙げるとなるとどこでも寝られることです。夜行バスで連日移動しながら旅行したこともあります。



研修への意気込みをひとこと★

たくさんのご協力やご指導のおかげで日々新しいことを学ぶことができ充実しています。まだまだ至らないところばかりでご迷惑をおかけしてしまうことが多々あるかと思いますが、早く成長して高知の医療に十分貢献できるよう精進いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。



「すずらの花・しおり」の贈呈セレモニーが開催されました

総務・人事課 事務局



令和5年5月23日、4年ぶりに「すずらの花・しおり」の贈呈セレモニーが開催されました。すずらの花としおりは、新型コロナ真っ只中でも、ANAグループの皆さんのご厚意により、全国の日赤病院に宅配便で届けられていました。箱を開けるととてもいい香りと、可愛い花としおりがたくさん入っていて気分が上がりました。

それでも、やっぱりANA客室乗務員からの手渡しは、ANAグループの皆さんの気持ちが直接届けられている

ようで、「手渡しはいい」と思いました。今回は、6東病棟の池田未来さんと5西病棟の福永紗智子さんに協力いただき、入院患者さんにも直接お渡しすることができました。しおり180冊は入院患者さんに、切り花40本は外来患者さんへ、すずらのブーケは1階インフォメーションへ飾りました。切り花を貰った外来患者さんは、「初めてすずらの花を見た、うれしい」「この花はお水をあげればいいの」「ラッキーやったね」などご家族と話しながら何度も眺めていました。

ANAグループの皆さんの「手にした皆様が少しでも明るい気持ちになれるように」という想いは、手にした方にしっかり届いていることでしょう。



いただいたすずらのように、患者様に癒しをご提供できるようこれからも頑張ります。

日々の治療に励む
患児や御家族へ
癒しが届けられたようで、
こちらまで穏やかな
気持ちになりました。



●栄養課のレシピ

そうめんチャンプルー

■材料(2人分)

そうめん(乾)・・・100g
ツナ缶(油漬け)・・・1缶
玉ねぎ……………100g
にんじん……………20g
にら……………20g
醤油……………小さじ2
塩胡椒……………適量
小ねぎ……………適量
鰹節……………適量

作り方

- 1 にんじんは千切りにし、玉ねぎは薄切りにする。ニラは4～5cm程度に切る。小ねぎは小口切りにする。
- 2 鍋に水を入れて沸騰させ、素麺を1分程度茹でたら、お湯をこぼす。茹でた素麺は冷水にさらしてぬめりを取り、ざるにあげて水気を切る。
- 3 フライパンでサラダ油を熱し、にんじん、玉ねぎを入れ、しんなりするまで炒める。
- 4 2、ツナ缶、ニラを入れさらに炒める。醤油を回し入れ塩こしょうで味を整える。
- 5 お皿に盛り付け、鰹節、小ねぎをかける。



高知赤十字病院
ホームページ



高知赤十字病院
Facebook



よろしければ
フォロワー登録
お願いします



皆さまへよりよい情報提供ができる紙面づくりを目指しております。
本誌に対するご意見やご要望などございましたら、高知赤十字病院医療事業・広報課までお寄せください。
(088-822-1201 (代表))

